

エヴァーグリーンコロナ

オスロ国立芸術大学入口の広場に今年は例年と違ったクリスマスツリーが飾られます。エヴァーグリーンコロナには、彫刻家ケネス・スネルソン（1927-2016）による作品の中で見受けられる構造原理が採用されています。

今年のツリーの制作には木工造形部門の講師である、ニコライ・フォンテインが指揮を取りました。作品には6本の木製の柱が使用されています。この6本の柱はオスロ芸大に設置されている6つの学科、オペラ・ファインアート・デザイン・ダンス・クラフト・シアターをそれぞれ表しています。すべての柱はワイヤーによって結ばれ、お互いに力強く引き合いながらツリーを支えています。

私たちはこれまでも今も、そしてこれからも、少しでも“グリーン”であり続けます。タイトルである、“エヴァーグリーンコロナ”はモミの木の樹冠からインスパイアを受けました。校舎の周辺はもとより、もっと大きな世界に対しても自然への配慮と感謝を持って、いつのときも原初に立ち帰って考えることが重要なのではないのでしょうか。コロナや#METOO、またブラックライブスマターなど世界の情勢は激しい嵐に曝されていますが、いつの時も私たちは自らに問いかけながら、険しい道を進んでいくのです。

2017年に、エヴァーグリーンカレッジで暴動がありました。定型のカリキュラムを設置せずに個人の学習を尊重するカレッジにて発生した、構造的な人種差別が引き起こした暴動です。学内外から産まれたたくさんの要素がこの構造を生み出し、そのすべてが複雑に絡み合っただけでなく、すでに手の付けられない問題となっていました。暴動が起きた直後もその余波の際にも、状況を理解しもつれを解いていくのには時間を要しました。

今年のクリスマスツリーに使用されたワイヤーの堅牢性と木の柔軟性は、規範と自由を表し、ツリーが立つことを可能にしているテンセグリティ（全パーツの張力によってできるバランス）はこのパンデミック下での統制と、私たちの表現の自由との均衡を意味します。学びと尊重の時間に感謝を込めて。

theodor.barth@khio.no

Theodor Barth a professor of theory and writings at Design dpt. of Oslo National Academy of the Arts(KHIO)